

## 農村の小中学生の生活行動様式

### — 食事を中心とした意識調査 —

岡村 敏弘 , 三浦 昭子 , 佐藤 栄子 , 佐々木幸子  
安保まり子 , 佐藤 涼子 , 加藤 恵子

#### 要約:

近年の農村は、高齢化が進み、出生率が低下している中であって、企業進出に伴う農外就労が増え、農家の生活リズムに変化が現われてきている。

第2年度、本研究調査の中に子供（乳幼児）の養育について家族が議論する項目が、巽に次いで食事に関するものが約3割みられた。

農村における食生活様式は、欧風化、多様化しているが、子供の食事を正すのは、基本的には家庭であり、食べ物を通して子供の育成に家族の関わりは欠かせない存在である。今回子供の食事の様子を中心に食生活の意識と実態を捉えるための食生活についてのアンケートを行った。

#### 見出し語：食生活の意識と実態

#### 研究方法

対象：農村部と街部の児童、生徒で当地域の農村部として、第2年度本研究調査と同じく由利町（人口約7千人）を選定し、由利町の全小中学校で、小学校は3校576名、中学校1校302名である。対照として、街部の小学校は本荘市（人口約4万5千人）で1校の4年生のみ114名、中学校は1校の2年生のみ318名

の総数1,309名にアンケートを配布した。

回収率は1,161名（88.7%）である。

（表1）。家庭状況は表2に示した。

対照選定理由は、食生活様式の確立するのが小学4年生であるとされ、中学生は加速度的な運動量の増加と自我の目ざめ、食事の好みが変わる年代といわれているからである。

期間：平成3年11月～12月

方法：学校を通して調査用紙を配布し、記入は保護者に依頼した。

アンケートの内容は、子どもの食事に関し、食事の摂取状況、食事と病気の予防、食事と生活態度の概ね3つについて調査した。

集計は農村部の小学生の低学年、高学年別の検討も試みたが、いずれの項目も差がみられず、小中学生別に農村部と街部に分けて比較検討した。

食生活のアンケートに、参考として、平成元年度、福島県全体の小学校5年生、対象1,033人に調査した成績（以下福島）と正木らによる平成3年由利町全町の1～6才児364名の生活実態調査（以下正木ら）の一部と比較検討した。

結果：

I. 父親、母親の就業状況：農村部の父親、母親とも勤務者が最多で、次いで勤めが主、時々農業を含め7割以上が勤務者である。農村の父親は、専業農業と農業が主、時々勤めを合わせても8.5%にしかならず、農業従事率が低い。

農村の母親は、勤めが主、時々農業を含め78%が勤務者であり、主婦業は2.7%にすぎない（表3）。

II. 子どもの肥満度：農村、街部の男女とも小学生に多く、20%以上の肥満が約10%である。30%以上は街部より農村の小学生に高率で、男女それぞれ6.5%、6.8%を示している。街部の小学生の女子に20%台が8%を示したが、対象者が少ないためもあり、中学生はゼロになっている（表4）。

III. 食生活のアンケート：設問に対する解答者は、一部を除いては、はい、いいえとし、以下「はい」と解答した割合を示している。

## 1. 食事の摂取状況

1) 記入者の意識にもよると思われるが、子どもは朝夕決った時間に、皆んなで楽しく食事をしていると解答した割合が高率を示した。朝は、忙しいと想像されるが、家族揃っての朝食は夕食に比べ約30%低下している。

福島での調査では、家族と一緒にの食事が45.2%、夕食が88.6%と当地域と似た傾向を示した。

2) 学校給食を残さないで食べているのは、小学校で農村に、中学校で街部に有意に高く、それぞれ87.3%、70.8%である。福島での調査では、好き嫌いなく全部食べる、が65.3%みられた。

3) 帰宅後の補食は、小中学生とも農村に有意に高く、それぞれ78.4%、75.9%を示し、夕食後の補食は農村の小学生に高い。正木らによると、間食の時間、種類、量とも子どもまかせ又は、決めていないと解答した者が75%みられた。

4) 小学生の献立の責任者は、街部に母親、農村部に祖母と有意に高率であるが、おやつの手作り、決った時間におやつを与える、インスタント食品や調理済食品をよく利用するなど、農村、街部の差はみられなかった。母親、祖母がある程度役割分担していると思われる（表5）。

## 2. 食事と病気の予防

1) 有色野菜をよく食べるのは、小学生は60%台、中学生はそれをやや上回っており、いずれも自給率の高い農村部の差はみられない。福島の例では、よく食べている44.3%、時々49.2%であった。正木らの調査では、嫌いな献立の1位が野菜であるが、野菜を好んで食べる割合は40%を示した。

2) 子どもが好きなものだけ食べる傾向があるのは47～61%であり、子どもの嗜好に合わせて作っているためと思われる。

こども用のおかずを作っているのは、30%くらいで、勤務者が多い母親は子どものおかずを作る時間が少ないのではないかとと思われる。

一方、偏食しないよう配慮している、が80%みられるほか、食べすぎないよう注意するなど積極的姿勢もみられる。

3) 買い食いの状況にもよるが、小学生では農村部に26%と多く、中学生では、農村、街部とも約40%が買い食いしている。

4) 学校検診の虫歯保有率は90%以上であるが、アンケート調査では約60%台と低率であった。

寝る前の歯みがきの習慣は、小中学生のいずれも農村に高率である(表6)。

### 3. 食事の態度

食事の時の挨拶があるのは、小学生では街部に2倍高く91.4%である。

表1. 調査対象者

	農村部 (由利町)	街部 (本荘市)	計
小学生	542	110	652
男子	293	49	342
女子	249	55	304
性不明	—	6	6
中学生	259	250	509
男子	88	118	206
女子	96	103	199
性不明	75	29	104

性別割合：男子 52.7%、女子 47.5%

地帯別：農村部 69.0%、街部 31.0%

食事の正しい姿勢をしているのは、小学生は街部に59.6%、中学生は農村部に54.6%と高い。箸を正しく持っている及びテレビを見ながら食べている、は70～80%にみられた(表7)。

考察：

1. 朝夕家族揃っての食事が必ずしも全員でなく、生活時間帯の違いが感じられ、家族が努力すれば解決できることもあると思われる。

2. 野菜、インスタント食品などの食事への意識は、農村、街部に差はみられないが、補食が農村の小学生に高い。生活習慣を変えるのはむずかしいが、肥満、むし歯に焦点をあてた健康管理が留意点と思われる。

3. 情報社会の現れか、テレビが生活に浸透し、テレビを見ながらの食事が70%以上にみられる。

食事は栄養補給の他に、家族の触れあいの場であり、食べ物を通して人間形成の場でもある。

食事の挨拶、正しい姿勢など日常的な習慣を正すのは家庭が基本と思われ、家族の認識と協力が望まれる。

調査にご協力頂いた由利町の小中学校、本荘市の尾崎小学校、南中学校に謝意を表します。

表2. 家庭状況

○調査記入家族の立場別：

母親 90.8%、父親 7.4%、他 1.8%

○母親の年齢層：35～39才（41.0%）、40～45才（33.2%）

○父親の年齢層：40～44才（41.9%）、35～39才（27.9%）

○家族の平均人数：農村部 6.2人、街部4.6人

表3. 父親、母親の就業状態

	農村部		街部	
	父	母	父	母
1 勤めている	47.7	57.1	69.1	51.4
2 農業が主、時々勤め	5.6	1.9	2.2	1.7
3 勤めが主、時々農業	27.3	21.3	2.8	1.9
4 専業農業	2.9	1.5	1.7	1.4
5 主婦	—	2.7	—	9.7
6 自営	10.9	8.0	16.1	12.5
7 他	3.7	5.4	2.8	9.7

無記入があり100%にならない

表4. 子どもの肥満度

		小学生		中学生	
		農村部	街部	農村部	街部
男 子	軽度肥満 (20~29%)	4.3	4.9	0.5	1.9
	中等度~高度 (30%↑)	6.5	4.9	0.3	2.8
	計	10.8	9.8	0.8	4.6
女 子	軽度	3.4	8.0	0.3	0
	中等度~高度	6.8	4.0	0.3	0
	計	10.1	12.0	0.6	0

表5. 食事の摂取状況

		「はい」と解答した割合			
		小学生		中学生	
		農村部	街部	農村部	街部
対象者数		542	110	259	250
1.	決まった時間に朝食をとっているか	98.5	99.1	96.9	96.8
	同 夕食	93.0	96.4	90.3	88.8
2.	家族と一緒に朝食をとっているか	64.6	80.0 <sup>***</sup>	58.5	63.6
	同 夕食	95.1 <sup>***</sup>	80.0	90.8	90.4
3.	皆んなで楽しく食事をしているか	94.3	96.4	97.9 <sup>***</sup>	90.0
4.	学校給食は残さず食べているか	87.3 <sup>***</sup>	57.3	59.6	70.8 <sup>**</sup>
5.	帰宅後補食するか	78.4 <sup>***</sup>	63.6	75.9 <sup>*</sup>	65.1
	夕食後補食するか	42.6 <sup>**</sup>	30.0	57.8	52.8
6.	子供のおやつは良く作る方か	17.4	12.7	7.3	7.6
	おやつは決まった時間与えているか	43.7	50.0	25.1	34.1 <sup>*</sup>
7.	インスタント食品を良く「はい」	0.7	0	1.2	2.0
	出すか(間食除く) 「時々」	58.9	60.0	53.6	55.6
	調理済み食品を良く「はい」	0.4	0	2.1	2.8
	出すか 「時々」	48.0	48.2	45.4	50.8
8.	献立の責任者は 「母」	42.0	85.5 <sup>***</sup>	47.9	51.0
	主に誰か 「祖母」	58.0 <sup>***</sup>	14.5	52.1	49.0

表6. 食事と病気の子防

	小学生		中学生	
	農村部	街部	農村部	街部
	542	110	259	250
1. 子供は有色野菜を良く食べるか	59.8	61.8	72.4	65.9
2. 好きな物だけ食べる事が多いか	61.3 <sup>*</sup>	50.9	47.4	56.0
3. 子供は買い食いをしているか	26.5 <sup>***</sup>	14.5	37.8	40.5
4. おかずを子供の要求通りに作っているか	6.1	7.3	5.9	7.9
5. 子供用のおかずを作るか	30.0	30.9	24.7	32.1
6. 偏食しない様配慮しているか	81.2	82.7	81.9	82.7
7. 食べ過ぎない様注意しているか	62.4	66.4	47.7	48.4
8. 虫歯はあるか	68.8	67.3	53.9	69.0 <sup>***</sup>
寝る前に歯みがきしているか	78.3 <sup>**</sup>	64.5	75.6 <sup>***</sup>	60.5

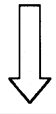
表7. 食事の態度

1. 頂きます、ごちそうさまの言葉はあるか	46.7	91.4 <sup>***</sup>	66.3	71.1
2. 子供の食事中は正しい姿勢か	47.0	59.6 <sup>*</sup>	54.6	44.4
3. 箸は正しく持っているか	77.3	78.2	87.1	81.9
4. テレビを見ながら食べるか	80.9 <sup>*</sup>	70.3	75.5	83.2 <sup>*</sup>
5. ゆっくりかむ様指導しているか	69.9	70.0	59.9	59.7

農村部VS街部 \*\*\*P<0.005, \*\*P<0.01, \*P<0.05

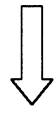
参考文献

- ・福島県農業協同組合中央会、福島県農協健康管理推進協議会「子どもの食べ物実態調査－健康と家族－」平成元年度
- ・正木みえ子他「子どもの生活実態調査を実施して（第1報）－子どもの日常生活習慣形成を考える－」あきた小児保健第27号 平成3年6月1日 Pp12～17



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:近年の農村は、高齢化が進み、出生率が低下している中であって、企業進出に伴う農外就労が増え、農家の生活リズムに変化が現われてきている。

第2年度、本研究調査の中に子供(乳幼児)の養育について家族が議論する項目が、牀に次いで食事に関するものが約3割みられた。

農村における食生活様式は、欧風化、多様化しているが、子供の食事を正すのは、基本的には家庭であり、食べ物を通して子供の育成に家族の関わりは欠かせない存在である。今回子供の食事の様子を中心に食生活の意識と実態を捉えるための食生活についてのアンケートを行った。